"しんじ"を信じる　京都府議会議員
第8号
編集・発行
二ノ湯しんじ事務所

二ノ湯しんじ通信

〒616-8167
京都市右京区太秦多藪町44-1
TEL：075-862-1355
FAX：075-862-1350
ninoyushinji@palette.plala.or.jp

～今こそ、伝統が未来を拓く！～

民主党政権の迷走は、普天間基地の移設問題等でますますひどくなり、自民でも民主でも無い政党に期待する国民が増える中、自民党離党組らが、理念なき新党結成を続けました。

民主党の迷走は、保守勢力（右）から革新勢力（左）まで幅広い人がいるので、政党の憲法と言うべき綱領が作れず、国家運営の基本方針が定まらないからです。一方で、自民党は綱領を持ちながらも、今までその哲学に基づいた政治を果敢には行えなかったし、そのことによって明確な国家像を示すことができませんでした。第3極を狙う政党も、目指す国家像が明確とは言えず、仮に政権を取っても、政治の混乱が止まるとは思いません。国民の不満や不安の根本的な原因は、政治が将来の国の姿を明確に描いていないことです。今こそ国創りの明確な旗印が必要なのです。

戦後復興期に、物質的な豊かさを求める政治は妥当ですが、バブル経済の崩壊後ですら、そのままの政治が続きました。また、戦後の混乱期に革新勢力の伸長を防いで日本の激変を阻止しましたが、冷戦終結後になっても、政治が、「反革新」以外の積極的な価値を示さなかったのです。

その中で、自民党は、単なる政権政党に堕し、利益を分配し、政治家個々人が私腹をも肥やし、政官財の癒着によって時々で必要な改革ができませんでした。それに対する国民の不満が、大不況を機に爆発したのです。政権を失っている今、我々はそう反省すべきだと思います。

政治の漂流を止めるために、今一度広く国民に支持される国家目標を掲げるべきです。つまり、自民党の反省とは、目先の課題解決に留まらず、理念に基づいて長期展望を持った国づくりをする政党に生まれ変わることです。そして、政治家一人一人が、日々緊張感を持って大事に取り組む覚悟を示すこと以外にありません。

いつもお世話になり有難うございます。
おかしな天気が続いておりますので、お体にはくれぐれもご自愛ください。
今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

6月定例会の日程

知事選挙後、初めての定例議会が開かれます。今年度の当初予算が、必要最低限の「骨格」予算だったため、今回の議会では景気対策・生活支援・未来の京都創り等の「肉付け」のための各種補正予算案が上程され、審議される予定です。

6月14日　開会
6月16日～17日　代表質問
6月21日～23日　一般質問　など

ホームページもご覧下さい！

URL：www.ninoyu.net

二ノ湯しんじ　検索

◆インターネットラジオ放送で、「ラヂオしんじ」の配信を始めました。

二ノ湯夏まつりのご案内

主催　二ノ湯しんじ後援会

日時　8月3日（火）
16:00～21:00

16：00～20：30まで自由にご入場いただけます

会場　ホテルグランヴィア京都

料金　大人　お一人様　￥5,000

（チケットのご購入・お問い合わせは二ノ湯しんじ事務所まで））

〈色々な形で活動をお伝えします。皆様からもご意見やご感想をお願い致します。〉

3月5日 予算特別委員会

民主党政権の地方軽視とバラマキ政策に問題あり！

〔二之湯〕民主党政権の予算では、国の施策である子ども手当に地方負担を残し、農家への戸別所得補償制度では地域性を無視し、地方の経済を支える公共事業費を大幅に削減した。これらは、地域主権どころか極めて中央集権的だ。知事には改善を要望してほしい。

〔山田知事〕子ども手当の地方負担は遺憾だ。地方は施設整備などに専念したい。しかし、22年度限りの措置なので知事会も我慢した。戸別所得補償制度には、地方の裁量の余地を残すべきだ。公共事業も、補助金を一括交付金にする等、何に使うかを地方が決められる制度にすべきだ。

〔二之湯〕「バラマキ」と称される個人給付型施策は、頑張れる人は頑張る＝「自助」、互いに助け合う＝「共助」、どうしてもダメな人には行政が手を差し伸べる＝「共助」の原則を崩してしまう。赤字国債を増発するので、財政も心配だ。

〔山田知事〕「自助、共助、公助」については同感。ただ、どこまで行政が保障するかという「ナショナルミニマム」は、世界を見ても色々だ。いずれにしても、受益と負担は釣り合わなければならない。

大転換期の行政の役割を自覚し、府民に夢を示せ！

〔二之湯〕時代が変われば役所の仕事も変わる。大不況の今、京都府産業の市場・販路の開拓や新産業創出を行政の役割と自覚し、東京事務所の在り方や中国や欧州の事務所開設も検討すべきである。

〔山田知事〕産業支援は変わるべきだ。日本は高付加価値型の産業を進めるべきで、京都はそれに相応しい。中国の巨大市場と安い労働力を認識し、単独の進出が難しい中小企業に対する支援を、経済界とも連携して、国内・海外双方の拠点から行いたい。

〔二之湯〕戦後、経済成長は果たせたが、家族や地域の一体感は薄れた。今後、経済活性化と幸せの基礎である家族・地域の一体感の両立をどう図るのか。

〔山田知事〕今後の高齢社会では、福祉や生活に密着した仕事がより必要とされる。同時に、団塊の世代が退職し地域に戻る。そこで成立し得るコミュニティビジネスを地域の一体感に繋げたい。また、多品種少量生産の時代に、職人のための工房付き住宅を創るなど、地域と一体化した産業を展開したい。

〈京都の文化と環境について〉

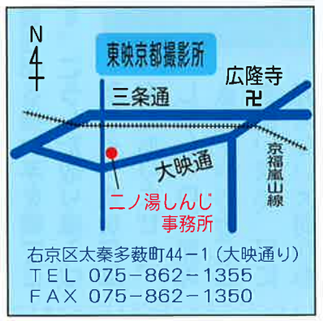
〔山田知事〕時代の転換期は、「温故知新」が大切だ。日本文化の故郷たる京都の文化を学び、先人の知恵や力に学ぶことで、地域・伝統産業から先端産業・芸術・文化財など幅広く未来の京都創りに活かしていける。また文化は、「自然との共生」など生き方でもある。それは京都が世界に発信していける力で、素晴らしいと認められる要素だ。心の時代である21世紀に極めて大切なものだ。

〔二之湯〕桓武天皇による遷都から始まり明治時代の東京遷都で疲弊した京都は、ご皇室とともにある「祈りの文化」の都だ。我々を生かす大いなるものや先人達への感謝の祈りは、自然との共生や「有難う、いただきます、お陰さまで」などの文化を生み出した。新たなる京都創生は、「祈りの文化」から始めるべきで、その意味でも、ご皇室に御戻り頂くことに大きな意義がある。京都御所に皇太子殿下御一家に御戻りになって頂く取組みを、知事が先頭に立って、府市協調のもとで進めてほしい。

なお、本会議での質問の様子は、府議会HPでもご覧いただけます。
■http://www.pref.kyoto.jp/gikai/

お困りごとなどご相談ください

皆様にとって、行政の仕事の役割分担は分かりにくいものです。「どこに相談に行けばいいのか？」とお悩みの時は、私の事務所まで、お気軽にお問い合わせください。



右京区太秦多藪町44－1（大映通り）
TEL 075－862－1355
FAX 075－862－1350

◆ともに語り合いましょう！

二ノ湯しんじは、教育のこと、環境のこと、福祉のこと、地域のこと、そして京都や日本の未来のことなど、皆様とお話をできる場をたくさん作っていきたいと考えています。時間や場所、人数は問いません。どのような会でも結構です。皆様のお声を聞かせてください。

◎お問い合わせは、二ノ湯しんじ事務所まで

世界で尊敬され必要とされる「日本らしい日本」を創ろう！

―誇り、希望、安らぎ―

我々自民党は、政策の基本的な考え方として、第一に「日本らしい日本を目指す（平成22年の綱領）」ことを掲げています。それを目指す中で、日本は、外には諸外国に必要不可欠な存在となり、内には国民の幸せ実感が高まると考えます。その具体的なイメージを、政治家は説明していく必要があります。

「希望」日本しかできない！

大戦後、先輩方のご努力によって、日本はモノが溢れるほど豊かになりました。しかし、それによってモノが売れにくく人件費も高くなり、産業の空洞化が進んでいます。

4月に、京都企業も多数進出している中国の蘇州工業園区を視察しました。12億人を超える中国人は、富裕層（＝市場）と貧困層（＝安い労働力）の二極に分かれ、モノがたくさん売れるし安く作れます。そんな国を相手に、日本は単なる価格競争では勝てないことを再認識しました。

蘇州工業園区の完成図の模型

このままでは、高齢化が進み人口が減っている日本では、職場が減り、経済は衰えます。産業構造も大きく変わり、多くの産業が先細りでしょう。勤労世代・若者は、何を目指して勉強をし、働けばいいのか、分からなくなります。社会保障制度の維持も難しくなり、お年寄りの生活も大変になるでしょう。

そこで今こそ、我々日本人の伝統的な長所に学び、新しい産業を興さなければなりません。まさに「温故創新」です。

「今こそ、伝統が未来を拓く」です。具体的には、「環境・エネルギー」や「健康・医療」などについて、内外から優秀な人材を集めて最先端の研究・開発を進め、新産業を創出し、世界をリードするべきです。日本にしか無い知恵・感覚・価値観・技術で、世界の環境保全や健康な暮らしに貢献し、国内外に夢や希望や潤いを与えるのです。

蘇州工業園区管理委員会から見える景色。各国の国旗の向こうに研究所や工場が見える。

工業園区各地で、工場や研究所の建設が進む

「誇り」日本人はスゴイ！

開国前後、多くの外国人が訪日しました。彼らが同じく口にしたのが、「日本人は、まじめで、やさしくて、礼儀正しくて、清潔で、繊細で、・・・」という賛辞です。彼らは、欧米とも他のアジアの国々とも異なる「完成された独自の文明」として日本を認め、植民地化をあきらめたと言われます。我々は、それを築き上げた先人の営み＝文化に改めて感謝し、誇りを持ち、大切に守り伝える責務があると思います。

私は、昨年11月に学生時代から続けている日本文化を海外に伝える事業でハンガリーへ行き、一〇〇〇年以上の歴史を持つ衣紋道山科流（えもんどうやましなりゅう）の作法による束帯と十二単の着付けを披露しました。日本の伝統文化に関心の高いハンガリーの方々には大変喜ばれました。

実は、東欧の国々では、日本の研究が盛んな国が多いです。それは、ロシアを驚異としていた東欧諸国には、日露戦争でアジアの小国の日本が勝利したことが大きな驚きであり、その秘密を研究しなければならなかったからです。以来、現在まで非常に親日的な国が多いのです。また、行き帰りに立ち寄ったどの空港でも、多くの日本製品が売られています。我々の技術力は、依然として世界トップ水準です。

日本人はもっと冷静に自国の歴史や実力を知って自信を持つべきであり、学校教育もそういうものにべきです。

国際文化交流事業「ネオ・ジャパネスクinハンガリー」

「安らぎ」家族や地域の絆が大事

誇りや自信を持って生き、経済が活性化しても、個々人がバラバラでは、常に漠然とした不安は拭えないのではないでしょうか？我々日本人は、家族や親せき、あるいは地域社会で、助け合い支え合いながら生きてきました。そうした結びつきの中で、自分の居場所や役割を見つけ、ある人は尊敬され、ある人はやさしく包まれて、それぞれが認められて生きてきたのです。

大戦後の経済成長の中で、若者が仕事を求めて都市へ集まりました。それは今でも続き、田舎では老夫婦のみの生活が、都市では核家族での生活が多くなりました。

我々は、食料の安全保障・環境保全の観点からも「農林水産漁業」を夢のある仕事に再生せねばなりません。また、高齢社会に不可欠な福祉・生活関連の分野等において、地域に根差した産業を育てねばなりません。それによって、若者が住み続けられる活力ある農山村を、人との繋がりが感じられる温かな都市を築き、暮らしに安らぎを取り戻さねばなりません。

生活する地域で成り立つ産業を育てることは、地域の責任ある担い手を育てることに繋がります。こうした取り組みは難しく、成功例は多くありません。しかし、目に見えるモノやお金だけを追い求め、目に見えない大切なものを失う生き方を改めるためにも、その挑戦は続けなければならないと思います。

田舎再生のために、農林漁業の再生が不可欠！

高齢社会には地域に根差した産業がより求められる